

音

にじぐみ（1歳児クラス）

白鳥 月菜





テーマの設定理由

玩具を叩いて音を出してみたり、歌やリズム体操など音楽が好きな子が多い。様々な音に着目し、子どもたちの興味や声を拾いながら、興味関心を広げていきたいと考えたため。



活動スケジュール

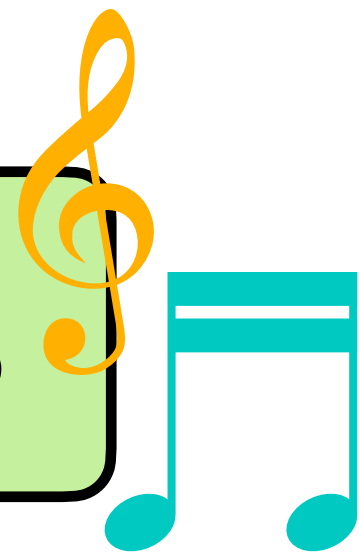
1回目	音遊び (12月上旬)
2回目	自然物を使った音遊び (12月上旬)
3回目	音の可視化 (2月中旬)

問いを考える



- ・ 戸外活動の時に「聞こえる！」と色々な音に気づく姿がある。さまざまな音の違いの気づきによる子どもたちの発言や、言動を問いとして設定していく。

環境をデザインする



- ・ どんぐりや落ち葉などのさまざまな自然物とカプセルや缶などの異なる素材を用意する。

探究活動を実践し、記録する

- ・ 木の枝で色々な場所を叩いて音の違いを感じたり、カプセルの中にどんぐりや落ち葉、木の枝などを入れ中に入れたものによって音が変わっていくのか、子どもたちが実践しながら探求していく。探究活動の様子は動画や写真を使って記録する。

振り返る・共有する

- ・ 活動を実施した日の振り返りの会（会議などでできない日は、最も近い日）で、活動内容の振り返りを行う。振り返りの内容はクラスの議事録に記録する。



音遊び（12月上旬）



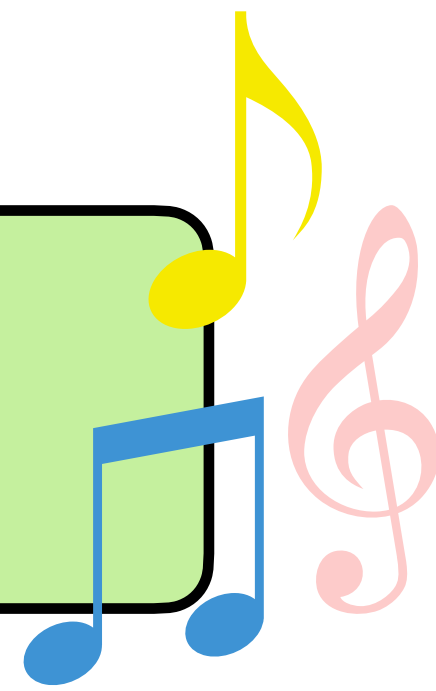
期待する経験

- ・ 音を楽しむ
- ・ 身近にある様々な音に気づく
- ・ 友だちと関わりながら一緒に音を出して楽しむ

環境設定

- ・ 子どもの人数：6人
- 保育者の人数：2人
- ・ 場所：散歩先（緑山公園）

子どもの様子や言葉



- ・ 緑山公園に大きな木が倒れていて、その木を太鼓に見立て木の枝で叩いていた。
- ・ 子どもたちが叩いているリズムに合わせて歌を歌うとそれに合わせて木を叩く子もいた。
- ・ 「次は〇〇を歌って」と曲をリクエストする子もいた。
- ・ 木だけでなく、公園の色々なところを叩きにいき、音の違いに気づく子もいた。





振り返り

自身として

- ・ 自然と次はここを叩いてみようなど、子どもたち自身が音を探しているように感じた。
- ・ 友だちの出す音に釣られ、様々な場所を叩き音を楽しんでいた。

クラスとして

- ・ 木の枝で色々なところを叩くだけでなく、石や子ども自身の手足を使うことで新たな発見に繋がったかもしれない。

自然物を使った音遊び（12月上旬）



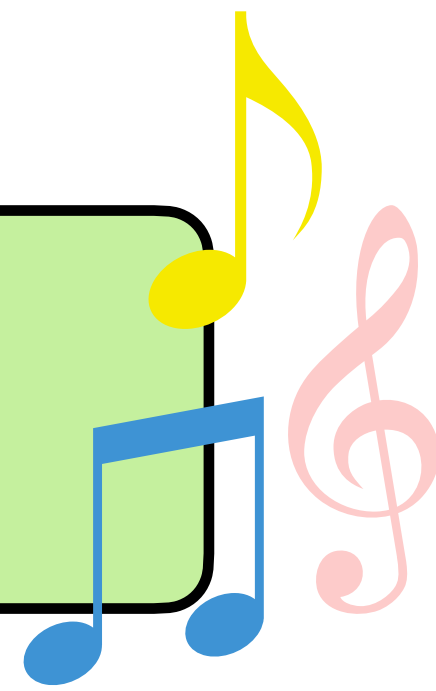
期待する経験

- ・音を楽しむ
- ・友だちと関わりながら一緒に音を出して楽しむ
- ・カプセルの中に自然物を入れ、入れるものによって音が変わる面白さに気づく

環境設定

- ・子どもの人数：6人（メンバーを変えて同じ活動を2回）
- 保育者の人数：2人
- ・場所：散歩先（緑山公園）
- ・準備物：カプセル

子どもの様子や言葉



- ・前回同様、倒れている木を太鼓に見立て木の枝で叩き音を楽しんでいる子もいた。
- ・カプセルにどんぐりを入れる子、どんぐりの帽子だけを入れる子、木の枝を入れる子など、色々な自然物を入れ、振って音を楽しんでいた。
- ・階段の上からカプセルを転がし、転がっていく音の面白さに気づく子もいた。





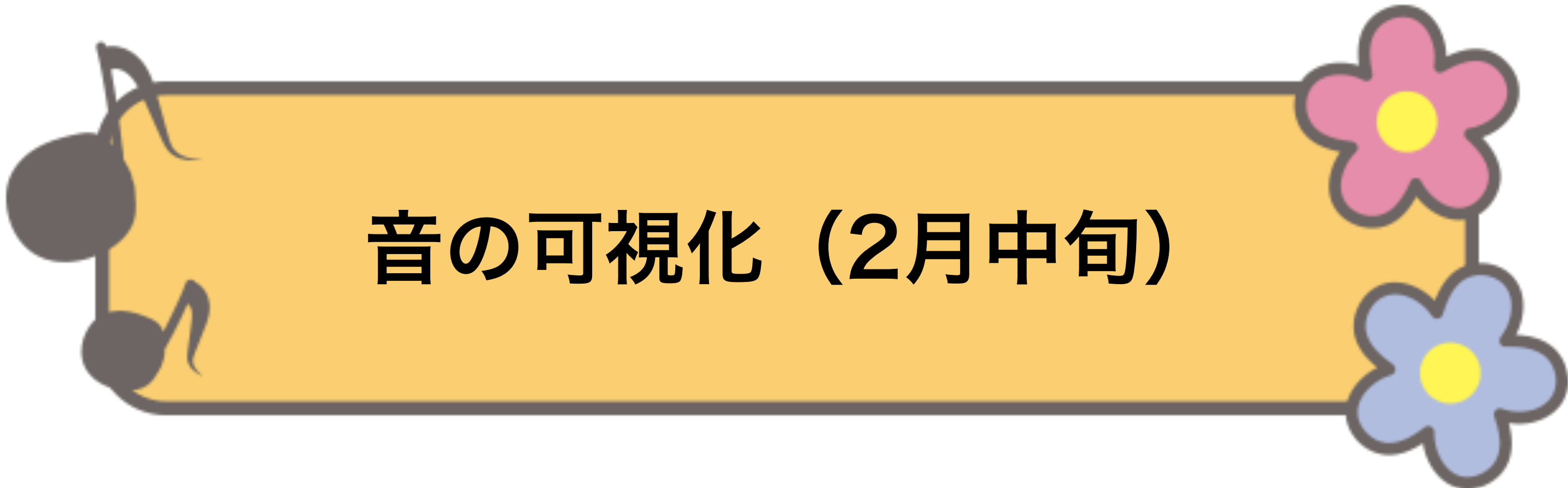
振り返り

自身として

- ・カプセル自体に興味を示す子が多かったように感じた。
- ・保育者が葉っぱだけを入れたカプセルを作っているのを見て、何かだけを入れ音の違いに気づく子もいた。

クラスとして

- ・子どもたち自身が工夫して遊び方を変えている様子。音が変わっていく面白さを楽しんでいる。
- ・保育者がもっと仕掛けていくとより良い



音の可視化（2月中旬）

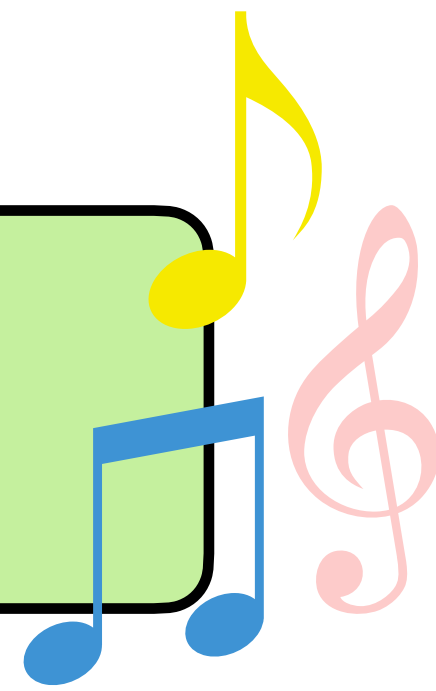
期待する経験

- ・音を見て感じる
- ・音を出す振動でものが動く様子を楽しむ
- ・段ボールと洗面器の上にトイレットペーパーの芯や花はじきを置き、置くものによって動きの違いに気づき、楽しむ

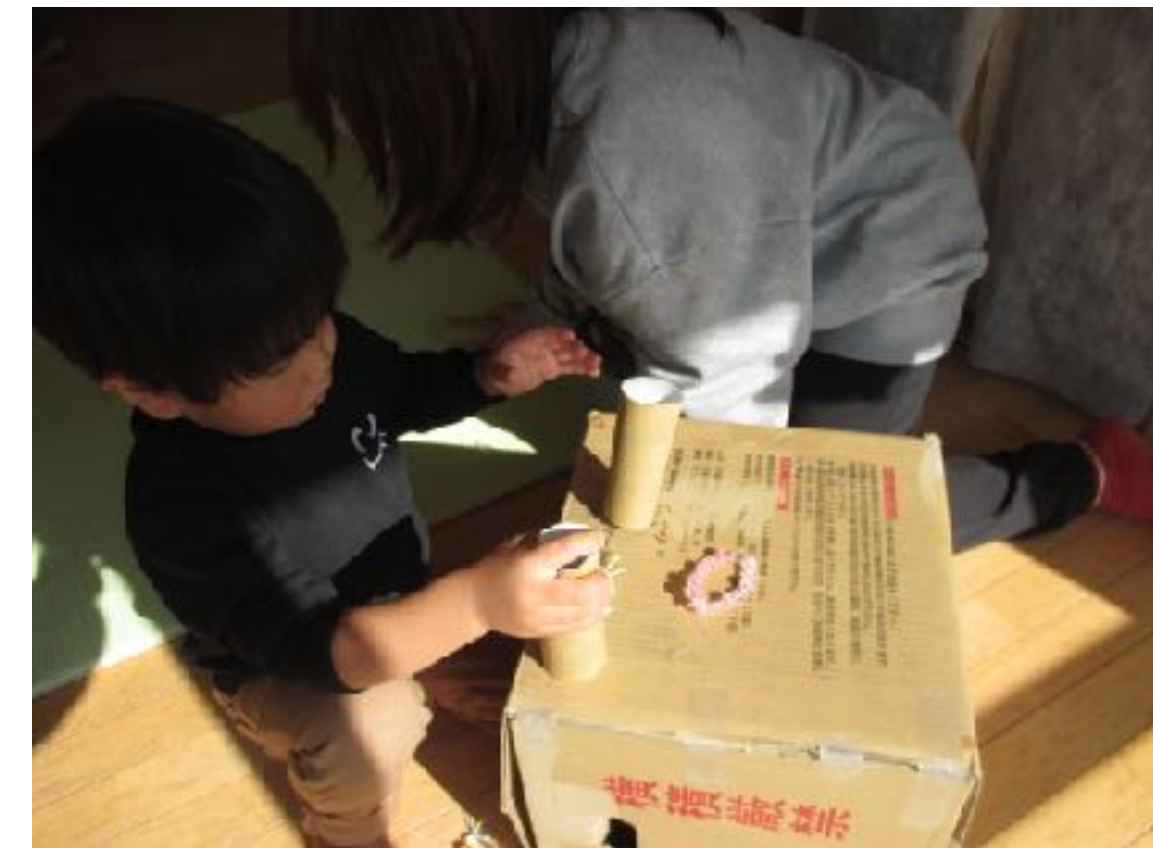
環境設定

- ・子どもの人数：6人
保育者の人数：2人
- ・場所：にじぐみ保育室
- ・準備物：段ボール、トイレットペーパーの芯、洗面器、花はじき

子どもの様子や言葉



- ・叩いた衝動と振動で段ボールや洗面器の上に
乗せたものが動く様子を見出し、何度も叩く子
もいた
- ・トイレットペーパーの芯で段ボールや洗面器
を叩き、その音を楽しんでいる子もいた。
- ・友だちが叩いている様子を見て真似する子も
いた。



振り返り

自身として

- ・なんとなく理解できている子もいたが、伝わりづらいつと感じた。
- ・段ボールが小さかったからか、仕組みを子どもたちが理解しきれていなかった。もっと大きいものを使ってやるとまた違う反応が見れたのではないかと感じた。

クラスとして

- ・感じてはいたが、見て感じるということは難しいのかも。感覚的に捉えているのかもかもしれない。
- ・太鼓の上に砂を乗せる方が音の可視化としてはわかりやすいのではないか。





まとめ

- ・音の活動が続けていったことで、普段の戸外活動でも様々な音に気づく子どもの姿があった。
- ・それぞれの子どもたちが音遊びに真剣に取り組んでいたからか、活動中普段よりも言葉数が減り、夢中になっている姿もあった。
- ・クラス全体で音遊びをする楽しさもあるが、少人数に分かれてじっくりと音と向き合うこと、子どもたちの気づきを保育者がすぐに受け止めることで探究心が生まれるのではないか。
- ・保育者が遊びを先導していくことでより子どもたちの探究心が深まるのではないか。